

この添付文書をよく読んでから使用してください。
また、必要時に読めるように保管しておいてください。

体外診断用医薬品

** 2022 年 2 月改訂 (第 5 版)

* 2020 年 11 月改訂 (第 4 版)

製造販売認証番号: 301AAEZ00053000

コバス® システム-G

アミラーゼアイソザイムキット

*コバス® 試薬 P-AMY

【一般的な注意】

1. 本品は体外診断用であり、それ以外の目的には使用しないでください。
2. 測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状やほかの検査結果などと併せて、担当医師が総合的に判断してください。
3. 添付文書に記載された使用目的及び用法・用量に従って使用してください。記載された使用目的及び用法・用量以外での使用については、測定結果の信頼性を保証しかねます。
4. 使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読み、記載に従って使用してください。

【形状・構造等(キットの構成)】

コバス試薬 P-AMY

**R1: 酵素/抗体液

α-グルコシダーゼ

抗ヒト唾液腺由来 α-アミラーゼマウスモノクローナル抗体
(抗S-AMY 抗体)

**R2: 基質液

エチリデン-4-ニトロフェノール-G₇ (エチリデン-G₇-PNP)

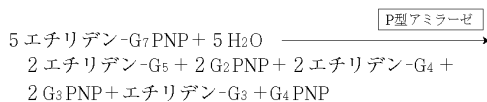
** (R1: ポジション B, R2: ポジション C)

【使用目的】

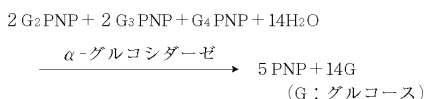
血清、血漿又は尿中のアミラーゼアイソザイムの測定

【測定原理】

S 型アミラーゼ阻害体を用いて、S 型アミラーゼを阻害し、残存している P 型アミラーゼ活性を以下の反応式に基づいて求めます。P 型アミラーゼは、エチリデン-4-ニトロフェノール-G₇ (エチリデン-G₇-PNP) を基質とすると、次のように反応します^{1),2)}。



この反応系に α-グルコシダーゼが共存すると、次のような反応を起こしますので、生成する p-ニトロフェノール (PNP) の吸光度変化量を測定することにより、アミラーゼアイソザイム活性を求めます。



【操作上の注意】

1. 測定試料の性質・採取法

測定試料: 血清、血漿 (ヘパリン Li) 又は尿

沈殿物のある検体は、使用前に遠心操作を行ってください。

測定試料の安定性³⁾:

血清、血漿: 15~25℃で7日間、
2~8℃で1ヵ月間安定

採血管の種類によっては、測定結果に影響を及ぼす場合があります。採血管をそのまま機器にセットして測定する場合は、採血管の製造元の指示に従ってください。

測定試料の安定性⁴⁾:

尿: 15~25℃で2日間、
2~8℃で10日間安定

アミラーゼは、酸性の尿で不安定となりますので、採取後ただちに測定を開始してください。ただちに測定を行わない場合は、pH をアルカリ側 (pH 7 を下回らない) に調整して保管してください。

**検体中に気泡が存在する場合は取り除いてください。

2. 妨害物質・妨害薬剤^{5), 6)}

血清、血漿:

- * (1) ヘモグロビン濃度 200 mg/dL、抱合型ビリルビン及び非抱合型ビリルビン濃度 60 mg/dL、乳び (イントラリピッド) L インデックス 1500 まで測定に与える影響は±10%以内です。⁷⁾ (P 型アミラーゼ活性が 50 U/L の試料による検討時)
- (2) 高濁度及び高脂血症の検体は > Abs flag を引き起こす場合があります。
- (3) 一般的な薬剤の治療濃度域では測定に与える影響はありません。^{8), 9)}
- (4) アスコルビン酸は 100 mg/dL まで測定に与える影響はありません。また、イコデキストリンを含む薬剤はアミラーゼの低値化を引き起こすことがあります。¹⁰⁾
- * (5) 非常に稀なケースとして免疫グロブリン異常症、特に IgM 型 (ワルデンシュトレームマクログロブリン血症) の場合、信頼性に欠ける結果となる場合があります。¹¹⁾
- * (6) マクロアミラーゼ血症の患者では、p-アミラーゼの測定結果が高値となる場合があります。
- (7) 唾液や汗は α-アミラーゼを含みますのでご注意ください。

尿:

- (1) ヘモグロビン濃度 500 mg/dL、リン酸濃度 186 mg/dL、尿素濃度 9,009 mg/dL まで測定に与える影響は±10%以内です。(P-アミラーゼ活性 350 U/L の試料による検討時)
- (2) 一般的な薬剤の治療濃度域では測定に与える影響はありません。¹²⁾
- (3) アスコルビン酸 400 mg/dL までは測定に与える影響は±15%未満です。

3. その他

**本試薬はコバス pro またはコバス pure などに適用できます。

【用法・用量 (操作方法)】

1. 試薬の調製方法

全ての構成試薬はそのままご使用ください。

標準液: 自動分析用キャリブレーター II (C.f.a.s. II) (別売) を使用してください。

2. 試薬の安定性

未開封時: 2~8℃で使用期限まで安定

**機器上: 26 週間安定

3. 別途必要な器具・器材・試薬

**・コバス pro 又はコバス pure など

- ・自動分析用キャリブレーター II (C.f.a.s. II)
- ・プレチコントロール CC1
- ・プレチコントロール CC2
- ・コバス システム-G NACL

使用方法は、各製品の添付文書及び取扱説明書をご参照ください。

4. 操作方法

詳細な操作方は別途パラメーターを用意してありますので、弊社までお問い合わせください。

(コバス pro の例)

- ** (1) 精製水 (試薬ブランク用)、標準液又は試料 3.1 μL を量り取ります。酵素/抗体液 78 μL を加え 37℃ でインキュベーションします。
- ** (2) 基質液 16 μL を加え、37℃ でインキュベーションします。
- (3) 基質液添加後 1 分間当たりの吸光度変化量を主波長 415 nm、副波長 700 nm で測定します。
- (4) 試薬ブランク、標準液の吸光度変化量から検量線を作成し、試料の吸光度変化量からアミラーゼアインゾイム活性を求めます。

5. 精度管理

精度管理には、プレチコントロール CC1 又はプレチコントロール CC2 (別売) をご使用ください。

【測定結果の判定法】

1. 測定結果の判定及び参考基準範囲

**参考基準範囲:

血清 (JCCLS 自動化法) ¹³⁾	: 16~52 U/L
血清・血漿 ¹⁴⁾	: 14~41 U/L
尿 ¹⁾	: 男性 7~356 U/L 女性 13~319 U/L

基準範囲は、測定試料、測定条件、測定個体などにより異なる場合がありますので、各施設で臨床医と相談の上、設定してください。

2. 結果の判定にかかる注意

測定範囲上限を超える高値を示した検体又は、あらかじめ高値が予測される検体については、生理食塩液などを用いて検体を適宜希釈して測定してください。

【性能】

1. 性能

【用法・用量 (操作方法)】の記載に従い、感度・正確性・同時再現性の各試験を行った場合、下記の規格値に適合します。

- (1) **感度試験**
- ① 精製水を試料として操作した場合の吸光度変化量 (光路長 10 mm) は、0.005 以下です。
- ② アミラーゼアインゾイム活性 110~465 U/L の標準液を試料として操作した場合の吸光度変化量 (光路長 10 mm) は 0.029~0.103 の範囲内です。
- (2) **正確性試験**
- 既知活性の管理用試料を測定するとき、既知活性の ±18% の範囲内です。
- (3) **同時再現性試験**
- 同一管理用試料を 3 回同時に測定するとき、測定値の CV 値はそれぞれ 6% 以下です。

** (4) **測定範囲**

3~1,500 U/L

(5) 測定下限値

LoB : 3 U/L

LoD : 3 U/L

LoQ : 3 U/L

** CLSI ガイドライン EP17-A2¹⁵⁾ に従って、ブランク上限 (LoB)、検出限界 (LoD)、定量限界 (LoQ) を算出しました。

2. 相関性試験成績

- (1) 本品と既存製品 1 との相関性を検討したところ、80 例の血清検体において良好な相関性が得られました。

相関係数 $r=1.000$

回帰式 $y=1.009x-0.810$

y = 本品 x = 既存製品 1

- (2) 本品と既存製品 2 との相関性を検討したところ、92 例の血清検体において良好な相関性が得られました。

相関係数 $r=1.000$

回帰式 $y=1.030x+2.518$

y = 本品 x = 既存製品 2

- (3) 本品と既存製品 1 との相関性を検討したところ、50 例の尿検体において良好な相関性が得られました。

相関係数 $r=1.000$

回帰式 $y=0.979x-0.763$

y = 本品 x = 既存製品 1

- (4) 血清検体とヘパリン血漿検体との相関性を検討したところ、59 例の検体において良好な相関性が得られました。

相関係数 $r=0.997$

回帰式 $y=0.998x-0.376$

y = ヘパリン血漿 x = 血清

3. 校正用の基準物質

JCCLS CRM001 (検査医学標準物質機構)

【使用上又は取扱い上の注意】

1. 取扱い上 (危険防止) の注意

- (1) 検体及び本品の取扱いには、使い捨て手袋、実験着などの保護衣及び保護用眼鏡を着用するなど、人体に直接触れないように注意してください。また、測定終了後はよく手を洗ってください。
- (2) 試薬が誤って目や口に入った場合には、直ちに水でじゅうぶんに洗い流すなどの応急処置を行い、必要があれば医師の手当てなどを受けてください。
- (3) 試薬が誤って皮膚及び粘膜に付着した場合には、直ちに大量の水で洗い流してください。
- (4) 試薬をこぼした場合には水で希釈してから拭き取ってください。
- (5) 検体をこぼした場合は、次亜塩素酸剤 (有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%) などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム製の手袋などにより手を保護してください。
- (6) 検体及び本品を取り扱う場所では飲食又は喫煙をしないでください。
- (7) 検体は HIV、HBV、HCV などのウイルスによる感染の危険性があるものとして取り扱い、検体又は検査に使用した器具類は高圧蒸気滅菌器を用いて 121℃ で 20 分以上加熱滅菌処理をするか、次亜塩素酸剤 (有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%) に 1 時間以上浸すなどにより消毒してください。これらの作業中は、じゅうぶんに換気を行ってください。
- * (8) 本品にはアレルギー反応を起こすおそれがある 2-メチルイソチアゾール-3(2H)-オン・塩酸塩が含まれていますので、取扱いにはじゅうぶんに注意して下さい。

2. 使用上の注意

- (1) 試薬及び消耗品は専用のものを使用し、その容器・付属品などはほかの目的に転用しないでください。
- (2) 試薬は必ず貯蔵方法に従って保存し、凍結させるなど指定の条件以外で保存したものや使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
- (3) ロットの異なる試薬又は残った試薬を混ぜ合わせて使用しないでください。
- (4) 試薬カセット内の試薬ボトルの組合せを変えないでください。
- (5) RFID をぬらしたり、強く押さないでください。
- (6) すべての試薬は保存又は反応中に強い光を当てないでください。
- (7) すべての試薬は開封又は分注時に微生物の汚染を避けてください。
- (8) 測定系の調製には必ず精製水を使用し、水道水は用いないでください。
- (9) 検体は使用前に 15～25℃に戻し、よく混和してください。ただし、激しく振り混ぜたり、泡立てたりしないでください。
- (10) 本品を保存する際は、垂直の状態での保存してください。
- (11) 本品の試薬カセットは再使用できません。

3. 廃棄上の注意

- (1) 測定により生じた廃液については、検体などと同様に滅菌又は消毒の処理を行ってください。また、これらを廃棄する場合には、各都道府県によって定められた規定に従ってください。
- (2) 使用後の容器を廃棄する場合には、廃棄物に関する規定に従って医療廃棄物又は産業廃棄物など区別して処理してください。
- (3) 廃棄する際は、水質汚濁防止法等の規則に留意して処理してください。
- (4) 検体及び試薬をこぼした場合は、次亜塩素酸剤（有効塩素濃度 1,000 ppm、0.1%）などの消毒液を使用してじゅうぶんに拭き取ってください。なお、拭き取る際には、ゴム手袋などにより手を保護してください。

4. その他の注意

本品による測定値は既存製品と高い相関性を示しますが、系統的な誤差を生じる場合がありますので、必要に応じて相関性について検討されることをお勧めします。

【貯蔵方法・有効期間】

1. 貯蔵方法

2～8℃で保存してください。

2. 有効期間

*15 カ月

使用期限(Exp.)は外箱に記載してあります。

【包装単位】

コバス システム-G コバス試薬 P-AMY 450 テスト

**R1: 酵素/抗体液 35.1 mL

**R2: 基質液 7.2 mL

**【主要文献】

- (1) Junge, W. et al. Development and evaluation of assays for the determination of total and pancreatic amylase at 37 ° C according to the principle recommended by the IFCC. Clin Biochem. 2001, 34, p.607～615. Erratum Clin Biochem. 2003, 36, p.161.
- (2) Kurrle-Weitenhiller A. et al. Method for the determination of total and pancreatic α -amylase based on 100% cleavage of the protected substrate ethylidene-4-nitrophenyl-maltoheptaoside.

Clin Chem. 1996, 42(S6), S98.

- (3) Tietz, N.W. ed. Clinical Guide to Laboratory Tests, 3rd ed. Philadelphia, PA. WB Saunders Company. 1995, p.46～51.
- (4) Hohenwallner, W. et al. Ber Öster Ges Klin Chem. 1983, 6, p.101～112.
- (5) Young, DS. Effects of preclinical variables on clinical laboratory tests. AACCC Press. 1997, 2nd ed.
- (6) Gokal, R. et al. Metabolic and laboratory effects of icodextrin. Kidney International, Supp. 81. 2002, 62, p.62～71.
- (7) Glick MR, Ryder KW, Jackson SA. Graphical Comparisons of Interferences in Clinical Chemistry Instrumentation. Clin Chem 1986;32:470-475.
- (8) Breuer J. Report on the Symposium “Drug effects in Clinical Chemistry Methods”. Eur J Clin Chem Clin Biochem 1996;34:385-386.
- (9) Sonntag O, Scholer A. Drug interference in clinical chemistry: recommendation of drugs and their concentrations to be used in drug interference studies. Ann Clin Biochem 2001;38:376-385.
- (10) Lott J. Inflammatory diseases of the pancreas. CRC critical reviews in clinical laboratory sciences 1982;17:201-228.
- (11) Bakker AJ, Mücke M. Gammopathy interference in clinical chemistry assays: mechanisms, detection and prevention. Clin Chem Lab Med 2007;45(9):1240-1243.
- (12) Sonntag O, Scholer A. Drug interference in clinical chemistry: recommendation of drugs and their concentrations to be used in drug interference studies. Ann Clin Biochem 2001;38:376-385.
- (13) 加藤隆則ほか. JCCLS 自動化法での基準範囲の算出と標準化対応法のトレーサビリティの確認-その 2; P-AMY. 日本臨床検査自動化学会. 2003, 28(4), p.354.
- (14) 野村博ほか. 4, 6-エチリデン-パラニトロフェニル- α -D-マルトヘプタオンドを基質とした「リキテック AMY EPS」および「リキテック P-AMY EPS」の基礎的検討. 機器・試薬. 1996, 19(1).
- (15) Clinical and Laboratory Standards Institute. Evaluation of Detection Capability for Clinical Laboratory Measurement Procedures. CLSI Document EP17-A2. Wayne, PA: CLSI; 2012.

【問い合わせ先】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

カスタマーソリューションセンター

〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70

フリーダイヤル: 0120-600-152

【製造販売業者の氏名又は名称及び住所】

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

〒108-0075 東京都港区港南 1-2-70

フリーダイヤル: 0120-600-152

COBAS is a trademark of Roche.
コバスは Roche の商標です。



ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

O 9080490 001-E





09080490001-E